生涯学習だより

１０月１日号

●編集発行　芳賀地区生涯学習奨励員連絡協議会

芳賀の史跡めぐり -18-

百万遍念仏

百万遍は、一三三一年京都の洛中に疫病流行の際、百万遍念仏―浄土宗で極楽往生を願って10人ずつの僧や信者が輪になって念仏を唱え、千八十個（百八の煩悩×10）の大数珠を百回、順送りにする仏事。合わせて百万遍の念仏になる。―を唱えたところ疫病が沈静化したので、後醍醐帝より号を下賜された知恩寺で始まりました。のちに一般でも行われるようになりました。

勝沢町では、かつて東曲輪の芳賀村役場北に勝沢山正覚寺がありました。何時のことか尼さんが住んでいた頃、疫病が大流行し、村人が大勢病に倒れ困っていたときに、村人たちは「尼さんに念仏を唱えてもらったならば、ご利益があるんべ」と相談し、尼さんに願い出ました。尼さんは快く引き受けましたが、「疫病を退散させるには念仏を唱え勝沢村にキリギリスを入れないことです」と教えてくれました。村人はみんなで協力し合い、念仏を唱え、キリギリスを追い払うことにしました。すると疫病も下火になり、明るい元気な村に戻ったということです。

正覚寺は明治5年に廃寺となり、明治22年から大正6年まで芳賀村役場として使われ、庁舎移転で勝沢村の集会所として利用され、伝統行事の百万遍念仏もここで行われていたようです。ところが大正12年の火災で焼失。百万遍に使われていた数珠と鐘は西曲輪の観音堂に運び出され、その後、観音堂のお祀りの7月25日に毎年行われるようになりました。（現在は毎年7月の第2日曜日に行われている）百万遍で唱える念仏も念仏講の人達が唱える一般的な念仏「南無阿弥陀仏」とほぼ同じようです。第二次世界大戦後は思想や信仰のあり方が大きく変わりましたが、百万遍のような伝統行事を末永く残そうと老朽化した観音堂から住民の総意によって勝沢町公民館で行うことになりました。老若男女で大数珠を念仏を唱えながら回し、一年の無病息災を祈ります。現在、この素朴な信仰が地域行事としてしっかり根付き、神社氏子、自治会、長寿会その他各種団体の協力により引き続き行われています。これらの信仰がコミュニケーションの役目も果たしています。

芳賀カルタ
「念仏を
となえて供養
百万遍」

芳賀地区では勝沢町、鳥取町、小神明町で行われ、数珠を回して唱えるのは勝沢町だけのようです。昔も今も疫病に対する人々の恐怖は変わらないといえます。

※数珠は麻をたらしてある親玉に南無阿弥陀仏の6文字が、また小玉には阿弥陀仏像と薬師様の梵字が彫られています。勝沢町で現在使われる大数珠は横山修一氏の製作で寄贈されたものです。

生涯学習奨励員
中山　洋子

勝沢町の百万遍念仏の様子

10月の主な行事予定

10月4日（日）芳賀地区社会体育功労賞及び優秀選手賞表彰式